

出生前検査・診断について考えている 妊娠中のみなさまへ

～公益財団法人 日本ダウン症協会 (JDS) より～



まず、あなたに「おめでとう」と言いたいと思います。
そして、あなたのからだの内に育ち始めた
＜新しいいのち＞に「はじめまして」と、お伝えします。
今まで存在していなかった新しい命、
おなかの中の赤ちゃんのことを考えるスタートです。
さて、今日、どのような思いをもって、
このチラシを手にとってくださっているのでしょうか。

公益財団法人日本ダウン症協会 (JDS) は、
ダウン症のある人たちとその家族、支援者で
つくる会員組織です。全国に約5,700名の会員
(特別会員<旧賛助会員>約500名を含む)
がいて、約55の支部・準支部をもっています。
前身の親の会が発足したのが1963年で、
約50年間、ダウン症の人たちとその家族の生活
の質向上を目指して活動しています。活動内容
は、ダウン症に関する知識の普及啓発、情報の
提供、調査研究、ダウン症のある人たちとその
家族に対する相談などです。

★JDSについての詳細はホームページをご覧
ください。<<http://www.jdss.or.jp>>

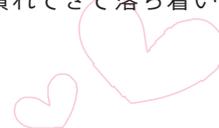


「妊娠してから、何となく心が落ち着きません」

たとえ待望の赤ちゃんであっても、妊娠に気づいた女性は
心が揺れます。妊娠してしばらくの間、女性は相反する思いを
抱く経験をするそうです。いのちを授かって「うれしい。がんば
ろう」と喜びながらも、「どうしよう。育てる自信がない。妊娠前
に戻りたい」といった不安な思いや解放されたい感情が湧い
てきます。

また、妊娠初期には、つわりなどの不快症状もあり、心身と
もにすっきりしないときです。体調が悪いときや不安な思いが
強いときは、様々なことを悪い方に考えがちになります。

しかし、心も体も少しずつ慣れてきて落ち着いてくるで
しょう。



「おなかの赤ちゃんが無事に育っているかどうか心配です」

あなたが、おなかの赤ちゃんのために「元気に育ちますよう
に。元気に生まれてきますように」と願うことは、当然のこと
です。しかし、時に「もしも元気でなかったらどうしよう・・・」という
考えがよぎることがあります。

この願いと不安は、妊娠中、出産中、そして生まれてからも、
ずっとあなたの心に在り続けるでしょう。もしも不安な気持ち
が長く続いたときは、「どうして不安になるのか」を振り返って
みましょう。

- ・周囲からのプレッシャーで「優秀で強い子どもを産まなければ
いけない」と思い込んでいるのではないかな。
- ・周囲が無関心で「一人で育てていかななくてはならない」と思

い込んでいるのではないかな。

赤ちゃんも、あなた自身も、無条件に尊い存在です。この世
の中にパーフェクト、完全な人はいません。一人ひとりの個性
が尊重され、助け合い、分かち合って生きていける社会なら、ど
んなにすばらしいでしょう。

妊娠中は、改めて人と人との関係を考える良い機会です。ま
ずは、あなたの願い事や不安な気持ちをパートナーやご家族、
親しいお友達に伝えてみませんか。あるいは、妊婦健診で出会
う医師や助産師、あなたの町の保健師も、あなたの身近にいる
支援者です。

そして、JDSの電話相談もぜひ活用してください。



「出生前検査を受けようかどうか迷っています」

あなたは、どうして出生前検査を受けようと思ったのでしょ
うか？ そして、出生前検査について十分な説明を受けましたか？

突然、「あなたの赤ちゃんには何らかの病気がある可能性が
高い。出生前検査をして染色体を確認し、赤ちゃんの治療を考え
る必要があります」と告げられたときは、それを理解することは
難しいと思います。ですから、産科医や助産師、関係する医療者
から丁寧な説明を受けてください。できれば、あなたのパート

ナーと一緒に説明を受けましょう。また、あなたがどうしてもよ
いかわからないと思う気持ちを伝えてケアを受けてください。

染色体異常の可能性があると告げられたとき、また、そのよう
な心配があつて出生前検査を考えているときも、出生前検査に
ついてよく説明を受けてください。出生前検査の目的・方法だけ
でなく、出生前検査の対象(ダウン症など)の最新の情報につい
ても説明を受けましたか？ そして、予想される結果とその後の

（表面から）

選択肢についても説明を受けて理解できたでしょうか？

出生前検査を受けて、それがあなたの望まない結果であったとき、あなたはどのように考えていますか？ そこまで考えたときには、「検査をするか」または「しないか」の間で気持ちが揺れるでしょう。結論を出すには一定の時間が必要です。いつまでに決めなくてはいけないか、検査の説明をした医師に確認しておき

ましょう。

結論を出すにあたって、誰かに話を聞いてもらいながら考えることも有効です。妊婦健診でカウンセリングやケアを受けられるかどうか、聞いてみましょう。もちろん、ご要望があれば、私たちJDSの電話相談でも応じていますので、ご連絡ください。



「出生前検査を受けないことにしましたが、不安が消えません」

健康に生まれた赤ちゃんでも病気になることはありますし、障がいのない赤ちゃんでも不慮の事故などによって障がいをもつことはあります。将来のことは、わからないことだらけです。

今、確かなことは、あなたと赤ちゃんが会おう時がやがて訪れる、ということです。ですから＜迎える準備＞に取り組んでみませんか。

＜迎える準備は自由な思いで行ってください＞

- 温かい心で迎えよう。
- わたしたちのところにきてくれて「ありがとう」と言おう。
- 何があっても守ろうと誓おう。
- 「いつも一緒だよ」と語りかけよう。
- 家族の輪の中で迎えよう。



「出生前検査を受け、今、不安な思いで結果を待っています」

あなたの願いがかなう結果であることを祈りながら待っています。

検査結果を待つ間も、おなかの赤ちゃんは成長していきます。“胎動”を感じるようになっていくかもしれません。お子さんを愛おしむ気持ちが自然と高まってくることでしょう。どうぞその気持ちに蓋をしないで、赤ちゃんに話しかけてあげてください。

もしかしたら、検査を受けようと思ったとき、今とは、思いや考えが変化しているかもしれません。「今はどんな結果であろうと育てていきたい」と思ったとき、新たに得たい情報も増えるでしょう。

JDSがお力になれるかもしれません。いつでもご連絡ください。



「検査の結果、赤ちゃんに染色体異常があると告げられました」

赤ちゃんの検査結果はダウン症でしたか？ 育てていく自信がない… 確かに育っている命がある… どうしよう… とても混乱し不安でいっぱいでしょう。

あなた一人でその思いを抱えないでください。これからどうするか、あなたのパートナーや家族とよく話し合ってください。そして、これからを決めるためには正しい知識と情報が必要です。JDSにはあなたが必要とする支援や情報があります。

ホームページの「ダウン症のあるお子さんを授かったご家族へ」もぜひ読んでみてください。そして、どうぞ遠慮なくJDSに連絡をください。あなたの思いを話してください。心を開いてあなたの気持ちを受け止めます。

「出生前診断を受けました。これからのことを聞きたい」と率直に伝えてくださって大丈夫です。

協力：中込さと子（日本遺伝看護学会 理事長・山梨大学大学院 教授）

※JDSは、出生前検査・診断の技術そのものに対して、特に見解を示すことはありません。

また、出生前検査・診断を一人ひとりがどう理解し、選択するかについて、賛成や反対の意見を表明することはありません。

わたしたちは、ダウン症についての正しい知識、ダウン症のある人たちとその家族の真の姿を多くの方に知ってほしいと心から願っています。



●公益財団法人日本ダウン症協会
(JDS)へのご相談

■相談時間／月曜日から金曜日の10:00～15:00
TEL: 03-6907-1824 FAX: 03-6907-1825
メール: info@jdss.or.jp

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11 < JDSホームページ: <http://www.jdss.or.jp> >

●日本遺伝看護学会へのご相談／メール: info@idenkango.com

★このチラシは、JDSのホームページからダウンロードできます。【PDFはこちら】http://www.jdss.or.jp/project/05_05.html